

シラバス情報

授業方法	講義 ・ 実験 ・ <u>実習</u>		
系 列	実 習		
科 目 名	シャシ整備		
必修・選択	<u>必修科目</u> ・ 選択科目		
対象学科	一級自動車整備科・二級自動車整備科自動車整備士コース		
年次学期・曜日・時限	2年前期	・ 月～水曜日	・ 1時限～8時限
時 限 数	1 2 1, 6時限(期末試験を除く)		
担当教員名	西原 繁行・板垣 潮・松原 吉彦		
実務経験	<u>有</u> ・ 無		
	国土交通省に認証された事業場における保守・点検・分解・組立など自動車整備士としての経験を活かし、整備を行う上で必要となる動力伝達装置の脱着調整作業についての実習を実施する。		
授業の目的	自動車整備において必要となる動力伝達装置の脱着、交換、点検及び調整作業を実施する。		
テキスト	実習テキスト		
授 業 計 画			
授業回数	テーマ	内容・方法等	使用テキスト範囲
第1回	マニュアル・トランスミッション脱着、点検1	F R車のマニュアル・トランスミッション及びクラッチの取り外し作業要領習得	実習テキスト(MT脱着)
第2回	マニュアル・トランスミッション脱着、点検2	F R車のマニュアル・トランスミッション及びクラッチの点検作業要領習得	実習テキスト(MT脱着)
第3回	マニュアル・トランスミッション脱着、点検3	F R車のマニュアル・トランスミッションの取付及び点検作業要領習得	実習テキスト(MT脱着)
第4回	オートマティック・トランスミッション脱着、点検1	F F車のオートマティック・トランスミッションの取り外し作業、要領習得	実習テキスト(AT脱着)
第5回	オートマティック・トランスミッション脱着、点検2	F F車のオートマティック・トランスミッションの取付、点検方法、要領習得	実習テキスト(AT脱着)
第6回	オートマティック・トランスミッション脱着、点検3	ストール・テストの作業要領習得、シフト・ロック機構、インタロック機構確認	実習テキスト(AT脱着)
第7回	オートマティック・トランスミッション分解、組立	オートマティック・トランスミッションを分解し、内部構造、作業要領習得	実習テキスト(AT分組)
第8回	C V T分解、組立	C V Tを分解し、内部構造を確認、カットモデルにて作動を確認	実習テキスト(CVT分組)
	ステップ試験(中間試験)	第1回～第8回までの授業内容に関する実技試験	別途課題
到達目標	自動車整備において必要となる動力伝達装置の脱着、交換、点検及び調整作業を理解する。		

授業の目的	自動車整備において必要となる操舵装置や空気調和装置の構造、機能、点検及び調整作業を実施する。		
テキスト	実習テキスト		
授 業 計 画			
授業回数	テーマ	内容・方法等	使用テキスト範囲
第 9 回	パワー・ステアリング装置 脱着、点検整備 1	油圧式パワー・ステアリング装置の脱着、 エア抜き作業要領の習得	実習テキスト (パワステ)
第 10 回	パワー・ステアリング装置 脱着、点検整備 2	電動式パワー・ステアリング装置の構造、 種類の確認、点検作業要領習得	実習テキスト (パワステ)
第 11 回	A B S 装置脱着、点検	A B S 体験による作動確認、ストップ・ラ ンプ・スイッチ等付随装置点検	実習テキスト (A B S)
第 12 回	空気調和装置構造確認、点 検整備 1	エア・コンディショナの構成部品、取付位 置、点検作業要領習得	実習テキスト (エアコン)
第 13 回	空気調和装置構造確認、点 検整備 2	エア・コンディショナのガス回収、充填作 業要領習得	実習テキスト (エアコン)
第 14 回	安全装置脱着、構造確認、 点検整備	S R S エアバッグ・システム、ステアリン グ・ホイール脱着作業要領習得	実習テキスト (エアバッグ)
第 15 回	制動装置 O / H 1	マスタ・シリンダ、ディスク・ブレーキ、 ドラム・ブレーキの O / H 実施	
第 16 回	制動装置 O / H 2	ディスク・ブレーキ兼用パーキング・ブ レーキ付き車両にて O / H 作業実施	
	ステップ試験（中間試験）	第9回～第16回までの授業内容に関する実 技試験	別途課題
	期末試験	第1回～第16回までの授業内容に関する実 技試験	
到達目標	自動車整備において必要となる操舵装置や空気調和装置の構造、機能、点検及び調整作業を理解する。		
成績評価方法	平常点（小テスト、レポートやノートの提出とその評価、出席及び授業態度）、ステップ試験（中間試験）並びに期末試験を合算して行う。		
定期試験受験資格	開講された全時限に出席し、レポート・ノートの提出が完了している者。 欠席した時限がある場合は、補講も完了している者。		
成績評価基準	<p>成績評価は、期末試験の点数が40点以上を満足した上で、100点を満点とする整数について、次の割合で行う。</p> <p style="margin-left: 40px;">中間試験の点数 30%</p> <p style="margin-left: 40px;">期末試験の点数 40%</p> <p style="margin-left: 40px;">平常点 30%</p> <p>上記の割合によって学期末の評点が60点以上である場合、以下によって評価する。</p> <p style="margin-left: 40px;">60～69点 = 可、70～79点 = 良、80～89点 = 優、90点以上 = 秀</p> <p>60点未満の場合、再試験を行い、試験点のみで60点以上のとき履修を認定し、成績は60点 = 可とする。</p>		
成績評価できない 場合の基準	全講義を終了時点の出席率が50%を満たしていない場合、 又は、成績評価が60点未満の場合。		